

今週の話題：

<土壤伝播蠕虫症、2007-2008 年において駆虫薬治療を受けた小児の報告数：2010 年の世界目標に向けた最新報告>

* 背景：

2001 年の世界保健総会決議(World Health Assembly Resolution 54.19)で土壤伝播蠕虫症の流行国である加盟国すべてに対し、“2010 年までに罹患の危険性がある学童全体の最低 75%、できれば 100 %に対して定期的に駆虫薬を投薬すること”を強く要請した。

未就学児(1-4 歳)における目標値は設定されていないが、この年齢群も次第に駆虫薬による治療対象となってきた。WHO のガイドラインでは、未就学児と 学齢児童(5-14 歳)の両方を土壤伝播蠕虫症のハイリスク集団として重要視している。

地図 1 では土壤伝播蠕虫症の分布と感染の有病率による分類を示している。

2010 年の目標達成に向けた進捗状況の定期的な報告のため、WHO は土壤伝播蠕虫症に対する治療を受けた学齢児童数の年間データを収集するデータバンクを確立した。

データバンクは WHO neglected tropical diseases web site よりアクセス可能である。

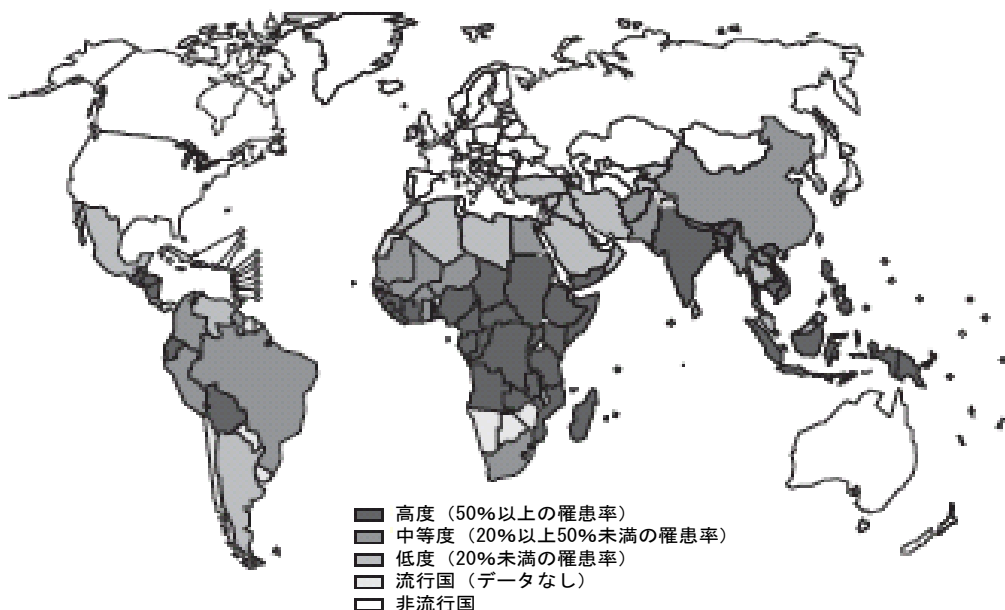
以下のデータは、各流行国において年毎に報告されたものである。

- ・化学療法による予防手段を必要とする未就学児と学童の推定数
- ・治療を受けた未就学児と学童の報告数
- ・プログラム全体と各国における達成率

この報告は 2007 年と 2008 年で土壤伝播蠕虫症の化学療法を受けた未就学児と学齢児童のデータを示す。

表 1：土壤伝播蠕虫症の治療を受けた小児の世界および地域における概要、2007 年、表 2：土壤伝播蠕虫症の治療を受けた小児の世界および地域における概要、2008 年（WER 参照）

地図 1：土壤伝播蠕虫症の地球規模の分布、2008

* 結果：未就学児

・世界情勢：

130 の流行国・地域のうち 06 年の 51 と比較し、07 年には 49、08 年には 46 がデータを報告した。07 年には 9080 万人(世界目標の 24 %に相当)が、08 年には 1 億 440 万人(27%)が治療を受けた。06 年に治療を受けた未就学児の総数は 8200 万人で 07 年に 25 カ国、08 年には 29 カ国で 75%目標を達成した。

土壤伝播蠕虫症は、ワクチン接種キャンペーンやビタミン A 補給により駆虫を行うプログラムがある。08 年にこれらのプログラムは全児童の 88%に実施でき、残りの児童にはリンパ系フィラリア症撲滅プログラムを行った。

- ・アフリカ地域：

46の流行国・地域のうち、07年には21、08年には22から報告があり、06年に報告された23と比較を行った。07年には3600万人(36%)、08年には5100万人(51%)が治療を受けた。この時点で、WHO地域の中で最も高い達成率であった。07年、08年と合計17の国で75%治療目標を達成した。08年には18の国がこの目標を達成した。

- ・アメリカ地域：

31の流行国、地域のうち07年には6、08年には5から報告があり、06年に報告された4と比較した。07年には80万人(2%)、08年には220万人(5.3%)が治療を受けた。08年にはハイチとニカラグアで75%目標を達成した。06年と07年では達成したのは1カ国のみであった。

- ・東南アジア地域

11の流行国、地域のうち07年には9、08年には8から報告され、06年に報告された7と比較した。報告された流行国や地域の占める割合がWHO地域の中で最も高かった。07年は3900万人(27%)、08年には3050万人(21%)が治療を受けた。06年に目標達成したのは2カ国のみであったが、バングラデシュ、韓国とネパールでは07年、08年ともに達成した。

- ・ヨーロッパ地域：

07年と08年では、未就学児を対象にした駆虫活動は報告されなかった。

- ・東地中海地域：

14の流行国、地域のうち07年には2、08年には4から報告があり、06年に報告された2と比較した。07年には200万人(4%)、08年には480万人(9%)が治療を受けた。06年は5%であった。08年にはソマリアとスーダンが75%目標を達成した。これより前に達成した国はなかった。

- ・西太平洋地域：

24の流行国、地域のうち07年には11、08年には7から報告があり06年に報告された15と比較した。07年には1270万人以上(35%)、08年には1580万人(42%)が治療を受けた。カンボジア、クック諸島、ラオス人民民主共和国とフィリピン共和国では07年08年ともに75%目標を達成した。06年に達成したのは2カ国であった。

学齢児童

- ・世界情勢：

130の流行国、地域のうち07年は57、08年には60の報告があり、06年に報告された64と比較した。07年には8260万人(9.4%)、08年には1億100万人(11.4%)が治療を受けた。06年には6.9%であった。総計で47%が土壌伝播蠕虫症を対象としたプログラムを通して治療し、53%はリンパ系フィラリア症のプログラムを実施した。

- ・アフリカ地域：

46の流行国、地域で07年に22、08年に26から報告され、06年に報告された24と比較した。07年には2100万人(10%)、08年には3100万人(15%)が治療を受けた。07年には2カ国で75%以上という目標を達成、08年には6カ国(ブルキナファソ、ブルンジ共和国、カーボベルデ共和国、マダガスカル、ルワンダ共和国、ウガンダ共和国)で75%目標を達成した。06年に達成したのは1カ国のみであった。

- ・アメリカ地域：

31の流行国、地域のうち07年と08年に12から報告があり06年の報告数と同じであった。この地域では、07年には880万人(8.3%)、08年には680万人(6.4%)が治療を受けた。この比率は06年に達成した22.7%に比べ驚くほど低かった。この理由として、学齢児童の割合が高いエクアドルとメキシコの地域において07年と08年には全く治療報告がなされていなかったことがあげられる。しかしながら、09年の予備データではこの地域で3000万人以上が治療を受けたとされる。07年には3カ国が75%目標を達成し、08年にはドミニカ共和国とニカラグアが目標を達成した。06年には2カ国で目標を達成した。

- ・東南アジア地域：

11の流行国、地域のうち07年には10、08年には9から報告があり06年に報告された8と比較した。この地域において流行国、地域の占める割合はWHO地域の中でも最も高い。07年は2800万人(8%)、08年には4100万人(11.4%)が治療を受けた。

この結果から、この地域は07年と08年に治療を受けた数が最も多い地域であった。07年には2カ国が75%目標を達成した。08年には韓国のみが目標を達成した。08年には14%が土壌伝播蠕虫症を対象としたプログラムを通して治療し、86%はリンパ系フィラリア症のプログラムによって治療した。

- ・ヨーロッパ地域：

4の流行国、地域のうち07年と08年にはそれぞれ1から報告があり06年にも同数の報告があった。07年には3万7千人が、08年にも同数が治療を受けた。これは1%以下に相当する。

- ・東地中海地域：

14の流行国、地域で07年には3、08年には6の報告があり、06年に報告された4と比較した。07

年には560万人以上(4.6%)、08年には520万人(4.2%)が治療を受けた。07年にアフガニスタンで75%目標を達成した。08年には達成した地域はなかった。

・西太平洋地域：

24の流行国、地域のうち07年には9、08年には6の報告があり、06年に報告された15と比較した。07年には1880万人以上(25%)、08年には1760人(23%)が治療を受けた。08年には学齢児童に関してWHOの地域の中で最も高い割合を占めた。07年に75%目標を達成したのは1カ国のみであった。08年にカンボジアとラオス人民民主共和国がこの目標を達成した。06年には5つの流行国と地域がこの目標を達成した。

* 考察：

・地球規模の視点：

07年には1億7300万人以上、08年には2億500万人以上の児童が土壌伝播蠕虫症の治療を受けた。定期的に駆虫薬治療を受けた子供の数は重要であり、増加している。しかしながら、その数は2010年の世界目標には遠く及ばない。特に、学校単位での駆虫薬介入は、低コストで健康にも大きな効果があるにもかかわらず、依然としてリスクがあるとみなされる子供たちのごく少数にしか実施されていない。

各国や地域で占める割合は一般的に未就学児童(27%)の方が学齢児童(11%)より高かった。未就学児に対しては、対象とした免疫キャンペーンや微量栄養素の配布、母子保健の日など進行中の駆虫活動などの、よく組織化された大規模な介入による成果が上がったが、一方で学齢児童に対してはリンパ系フィラリア症の組織的介入のみであったからであろう。より多くの国で目標が達成されたことで、このプログラムを通しての学齢児童の治療に将来的な関心を高めた。しかし、いくつかの地域の非政府組織と宗教的奉仕活動の組織において相当数の治療を遂行することと、WHOはこれらの組織からデータを収集する努力を行い、可能であれば次の更新時に報告することが重要である。

* 地域展望：

・未就学児童：

アフリカ地域は08年に全ての地域の中で高い達成率を記録した。初め、アフリカ地域はリスクがあると見なされている未就学児の大多数に駆虫を供給した(地域範囲51%)。この地域の強い統率力は、18/29の流行国と地域が未就学児を対象として75%目標を達成したことから確認されてきた。

東南アジア地域(08年で21%)は西太平洋地域(08年で42%)と同様に相当数の未就学児に治療を行ったにもかかわらず地域で占める割合は低かった。一番の理由は、インドや中国のような広い地域や国では駆虫活動の規模に限界があることである。

アメリカと東地中海地域はそれぞれ10%以下の達成率であった。

・学齢児童：

この年齢のグループでは、流行国、地域の占める割合が西太平洋で約23%、続いて約15%のアメリカ、11%の東南アジアと続く。

アメリカと東地中海地域はともに10%以下であった。しかしながら、09年に報告されるデータにはかなりの増加が見込まれている。

表：2009年に新たに報告されたメジナ虫症症例数、図：2007-2010年に世界で報告されたメジナ虫症の症例数（WER参照）

（藤原麻有、宇佐美眞、小西英二）